

## 2007年度研究大会プログラム

### 全体テーマ:「国連新時代への模索」

冷戦のくさびが解かれて、世界は大きな転換期を迎え、これに対応するかのように国連はその活動を拡大し変容させ、また、加盟国の行動や対応も多様化してきた。コフィー・アナン事務総長時代はまさにその起点にあたる時期となった。この時代を総括することにより、新時代の国連の展望を試みる。

第1日:6月2日(土)

司会: 京都大学法学部教授 位田隆一

◇ 開会の辞(午前10時～10時10分)

日本国際連合学会理事長 明石 康

◇ 基調講演(午前10時10分～10時40分)

「国連新時代への模索」国際海洋法裁判所判事 柳井 俊二

第1セッション(午前10時45分～午後12時30分)シンポジウム

テーマ:「世界秩序再構築への展望～国連憲章への挑戦」

国連の活動は拡大・変容し、世界秩序の再構築は現在進行形である。その態様は、国連憲章の枠組みにも大きな影響を与える。実際、主権平等、武力不行使、民主主義といった国連によって立つ基本原則にさまざまなゆらぎが生じている。それはとりわけ国際社会における「法の支配」のゆらぎであり、その芯中である国連憲章への挑戦である。米国のイラク政策はその一例といえよう。これに対して国連は、国際法は、そして加盟国はいかに考え、対応するのか。

モデレーター: 京都大学名誉教授 香西 茂

パネリスト1: 関西大学教授 藤田 久一

パネリスト2: 国際基督教大学教授 最上 敏樹

パネリスト3: 外務省総合外交政策局審議官(国連担当大使) 木寺 昌人

第2セッション (午後2時～4時)シンポジウム

テーマ:「地球的支援基盤(global constituencies)との連携—国家主権から『われら人民』の時代へ」

アナン事務総長は、市民社会とのパートナーシップ構築や民間セクターとの協働を推進するグローバル・コンパクトを提唱した。2006年度年次報告では新たな章「地球的支援基盤」を設け、市民社会やビジネスとの連携について強調している。加盟国の枠を超えて、「われら人民(We, the peoples)」が国連の活動にどのように関わっていくのか、さまざまな観点から再検討してみたい。

モデレーター: 一橋大学教授 大芝 亮

パネリスト1: 「グローバル・コンパクト」三井住友海上会長 秦 喜秋

パネリスト2: 「ジャーナリズムと国連」 時事通信社 淡路 愛

パネリスト3: 「NGOと国連」 ジャパン・プラットフォーム代表理事 長 有紀枝

パネリスト4: 「国連新時代における国連と国家(加盟国)の関係」 国連大学 学術研究官 ヴァスリン・ポポフスキー

第3セッション(午後4時10分～5時20分)

テーマ:「事務局改革」

アナン事務総長の改革の最も大きな問題は事務局改革であった。2005年3月の「国連に投資する」はその方向をさらに進めようとするものである。事務局改革がどのように成功であり、またどのように失敗であったかを潘基文(パン・ギムン)新事務総長への課題を見通しながら検討する。

モデレーター: 亜細亜大学教授 秋月 弘子

報告者1 : 「国連合同監査団から見た国連事務局改革(仮題)」 国連合同監査団メンバー 猪又 忠徳

報告者2 : 「国連事務局改革と国際公務員制度(仮題)」 岡山大学教授 黒神 直純

討論者 : 立命館大学教授 石原 直紀

◇ 総会(午後5時20分～6時)

◇ 懇親会 (午後6時10分～7時30分)

会場: 国連大学2F レセプションホール

会費: 一般会員4000円、学生会員3000円

(当日学会受付にて申し受けいたします)

---

第2日:6月3日(日)

第4セッション(午前10時～12時)－報告

テーマ:「グローバル・イシューズへの取り組み」

モデレーター: 前国連広報センター所長 野村 彰男

報告者1 : 「平和と安全保障」 一橋大学教授 中満 泉

報告者2 : 「人権理事会の下での人権との取り組み」 中央大学法科大学院教授 横田 洋三

報告者3 : 「新しい脅威と取り組む国連(仮題)」 外務省地球規模問題審議官 鶴岡 公二

報告者4 : 「ミレニアム開発目標(先進国のODA政策等も含む)」 国連開発計画(UNDP)駐日代表 村田 俊一

第5セッション(午後2時～4時)－ 独立報告

司会 : 敬愛大学教授 庄司 真理子

報告者1 : 「多国籍軍型軍事活動による紛争処理－多機能化現象とその法的整理」

大阪大学大学院国際公共政策研究科 博士後期課程 山本 慎一

報告者2 : 「武力紛争の発生に対する安全保障理事会の対応 ー安保理による『平和政策』の実施の問題」

東海大学研究員 田辺 亮